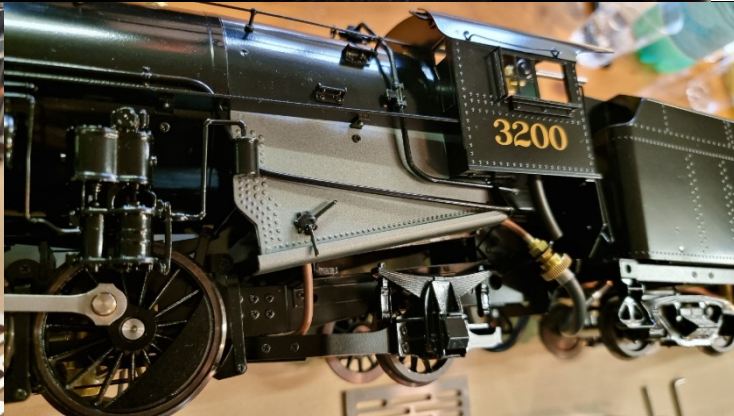
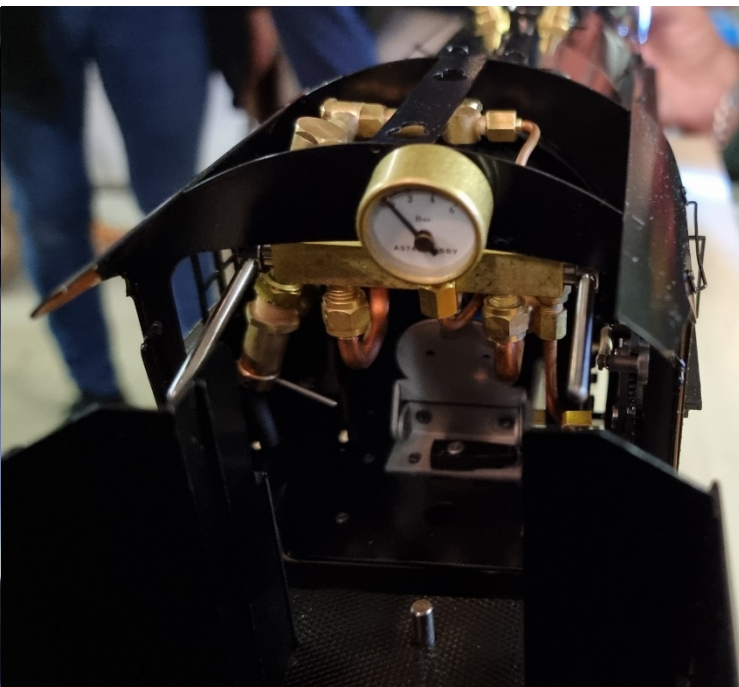


全く、いい加減。下々の塗炭の苦しみを理解しろ！と叫びたい今日この頃です。

全く、支那共産政府のボスの、昔堅気（彼は、ランプの様に、この地域で冊封体制下の皇帝にでも成った気なのかなあ？と思う節もあります）にも、がっかりさせられますが、足元のリーダー女の頑なさにも、残念感を禁じ得ません。まあ下々の愚民からの支持率が高い事で、勘違いをなさってるのかもしれませんが、もう少し『したたか』に『要領良く、立ち回れんものかなあ、この旧滞(態)に無批判な“くそアマ”』と毒つくのが我々下々の採れる精一杯の抵抗姿勢です。さて此の様な事を感じるのも、ミカドの石炭焚、我国よりずっと遠いスイスにもう届いているんです。そして先週、日曜、懐かしのレイアウトで、お披露目をしています。蕪湖の工場から出荷されたのは、先週月曜なのにね！全く郵便関税事業（公のお仕事）は！です、向こうから送られて来た写真を一足先に皆様にお披露目致します。





いやぁ。新年早々驚きました。かなり頭に来ています！

欧州を核とした西側政権も口をあんぐり開けざるを得ない『事態』が今週も引き続き勃発しましたね！

今回も、彼の言動に面と向かって、民主世界のリーダー達は、何も反論は出来ません。

『アングロサクソン』のおバカさ加減は、御身第一。自己中さは『西半球』という、彼の言葉に集約されています。

本末の1発目（初荷）は昨日、蕪湖の工場から出荷されましたが！

すみません。と云う事で、予約者以外の上記のミカド石炭焚は US 経由になりますし現時点で納期の確約は出来ません、ご容赦ください、価格は、あのお方のタリフ分は、確実にお高くなります。ご理解ください。

あ。それと、弊社は基本再生産をしない事がポリシーでしたが、以下のモデルに関して再生産をするかもしれません。と云うのも以下のパニエタンク、数を多く作ったので（とは言え7種類ですから1機種当たりの生産数は、然程多くはないのですが）、今では忌避素材にしている、亜鉛ダイキャストを、バルブギヤに採用し、この素材一旦壊れると修理が効かないので、補修部品が枯渇しているという事情もあります。流石に諸々諸事上でインフレ下ですから、前と同じ価格と言う訳には行きませんが、英国にも。お求めやすい価格の ASTER ブランドのモデルをという、希望も無視できないので、足回りは其の儘で、縮尺の、微妙におかしかった上部を少し修正した形で出そうかとも考えています、勿論、赤の色が変だった、LT（ロンドントランスポート）仕様も正しい色で出す予定です。まあ年末から、既に来年の話ですが。今年は P2 と弁慶、そして BR80 を出す予定です。んで健康に留意して気長にお待ちください。



THE PANNIER 0-6-0 TANK, CLASS 5700